

326

140

大日本麥酒株式會社目黒工場編
麥酒釀造用大麥品評會報告 第三回



始



第參回麥酒釀造用大麥品評會報告

大日本麥酒株式會社
目 黑 工 場

326-140

大正四年度大麥買入成績

本年度目黒工場に於て購入したる大麥は栃木、千葉、茨城、埼玉、神奈川、長野の六縣にして買入總石數參萬九百石七斗八升五合なり今各縣別供給石數及び等級を示せば左の如し

栃木縣	茨城縣	千葉縣	神奈川縣	長野縣	埼玉縣	合計
-----	-----	-----	------	-----	-----	----

壹等品	貳等品	參等品	合計
一、〇六三、〇六〇	二、八四二、一六七	一〇、五〇八、一二八	一四、四一三、三五五
七〇、五〇〇	一、〇七一、〇〇〇	六、四八六、〇〇〇	七、六二七、五〇〇
九八、五〇〇	一、三三三、五〇〇	三、七〇一、五〇〇	五、一三三、五〇〇
九七、〇〇〇	四五四、五〇〇	一、八二〇、三三〇	二、三七一、八三〇
一六七、五〇〇	三五八、〇〇〇	二六六、〇〇〇	九〇三、〇〇〇
二九、五〇〇	九八、五〇〇	一一一、五〇〇	四五一、六〇〇
一五二六、〇六〇	六、一五七、六六七	二二、二一七、〇五八	三〇、九〇〇、七八五
		白麥	

第三回麥酒釀造用大麥品評會記事

附耕作組合の表彰

一、出品物の事

本品評會に提供したるものは本年度購入大麥の中一人の耕作者にして

大正 3.17 内交

以上を供給したるものに付受渡の際現品の一部を抜き取りたるものにて出品總數百九十九點を出せり

埼玉縣は契約栽培にあらざるを以て除く

一、審査の事

出品物の審査は農商務技師正五位勳四等安藤廣太郎氏を審査長に仰ぎ左の項目に據り嚴正公平なる審査を行ひ九十五點を擬賞せり

二、審査項目

- 一、重量 (ヘクトリットル重量)
- 二、發芽力
- 三、精撰
- 四、蛋白質の含量
- 五、水分

以上の諸項目により出品物を審査評點し項目以外審査に必要な諸點を參酌して審査點を附與せり
評點法は前年度と同一なり

四、審査成績

千粒 ヘクトリットル	精撰	水分	蛋白質	發芽時間	重量	精撰	發芽時間	審査點	減點	成績	供給者名
四六〇	六八〇	二四〇	四四五	二、五九	九九二	九九四	九九八	二六	〇	四四	白石金十郎君
四五〇	六八〇	二七〇	四四五	二、〇六	九九四	九九八	九九八	二〇	〇	四三	伊藤喜一郎君
四六四	六八〇	一六五	四二三	二、〇三	九九八	九九八	九九八	二〇	〇	四三	大橋富藏君
四五〇	六八〇	二六〇	四三八	二、三九	九九二	九九八	九九八	二〇	〇	四三	磯清次君
四七〇	六八〇	二七〇	四三八	二、三九	九九二	九九八	九九八	二〇	〇	四三	人見金助君
四五五	六八〇	二七〇	四三八	二、三九	九九二	九九八	九九八	二〇	〇	四三	市村兼吉君
四五五	六八〇	二七〇	四三八	二、三九	九九二	九九八	九九八	二〇	〇	四三	大武六三郎君
四五五	六八〇	二七〇	四三八	二、三九	九九二	九九八	九九八	二〇	〇	四三	波邊仁三郎君
四五五	六八〇	二七〇	四三八	二、三九	九九二	九九八	九九八	二〇	〇	四三	矢吹寅吉君
四五五	六八〇	二七〇	四三八	二、三九	九九二	九九八	九九八	二〇	〇	四三	矢板末吉君
四五五	六八〇	二七〇	四三八	二、三九	九九二	九九八	九九八	二〇	〇	四三	磯金吾君
四六〇	六八〇	二七〇	四三八	二、三九	九九二	九九八	九九八	二〇	〇	四三	本澤茂三郎君
四七〇	六八〇	二七〇	四三八	二、三九	九九二	九九八	九九八	二〇	〇	四三	後藤均平君
四七〇	六八〇	二七〇	四三八	二、三九	九九二	九九八	九九八	二〇	〇	四三	人見由吉君
四六〇	六八〇	二七〇	四三八	二、三九	九九二	九九八	九九八	二〇	〇	四三	花塚留三郎君
四六〇	六八〇	二七〇	四三八	二、三九	九九二	九九八	九九八	二〇	〇	四三	室井留吉君
四三、五	六八〇	二七〇	四三八	二、三九	九九二	九九八	九九八	二〇	〇	四三	持井幸三郎君
四三、五	六八〇	二七〇	四三八	二、三九	九九二	九九八	九九八	二〇	〇	四三	小貫通君
四三、五	六八〇	二七〇	四三八	二、三九	九九二	九九八	九九八	二〇	〇	四三	本澤長吉君

縣名	買入石數	出品點數	壹等賞	貳等賞	參等賞	受賞者合計
栃木縣	一四、四一三、三五五	一四三	五	二〇	三四	五九
茨城縣	七、六二七、五〇〇	七	〇	一	〇	一
千葉縣	五、一三三、五〇〇	一四	一	二	九	一一
神奈川縣	二、三七一、八三〇	一五	一	二	五	八
長野縣	七九一、五〇〇	二〇	三	六	七	一六
合計	三〇、三三七、六八五	一九九	一〇	三〇	五五	九五

六、褒賞授與式の事

本品評會を大正四年十一月二十三日千葉縣印旛郡佐倉町印旛郡農會に開催し同時に褒賞授與式を舉行せり來賓には堀田伯爵、加納子爵代理、千葉縣知事代理高橋縣技師、金谷佐倉五十七聯隊長、千葉、茨城、栃木、神奈川、各縣農會技師、印旛、東葛飾、長生、眞壁各郡農會長、佐倉町長、堀田伯爵家農事試驗場長關係各郡技術員を始め各耕作組合長及び有志數十名外當日來會せる耕作者約五百名あり舉式は午前十一時第一振鈴と共に各組合長耕作者一同入場次で來賓の着席、永井工場長開會の辭に次ぎ安藤審査長の審査成績報告あり馬越社長代理上野工務部長受賞者一同に賞狀并に賞品を贈呈され終て式辭あり各來賓の祝詞、受賞者總代の答辭ありて式を終れり式後少憩來會

者に午餐并に麥酒を呈し午後二時より講演會を開催し安藤審査長、上野工務部長、永井工場長の講演あり午後四時終了、組合長并に耕作者一同に生産品にて醸造せる麥酒を饗し和氣霽々薄暮散會せり
審査品は會場に陳列し來會者の觀覽に供し精撰器、千粒計算器等を備へ付け其の使用法并に審査の概要を説明せり

受賞者氏名

縣名	受賞者氏名
長野縣	金子平作氏
同 縣	塚田藤一郎氏
同 縣	瀧澤龜太郎氏
同 縣	白石金十郎氏
同 縣	伊藤喜一郎氏
同 縣	和田新藏氏
同 縣	大橋富藏氏
同 縣	磯崎清次氏

栃木縣那須郡金田村組合
千葉縣印旛郡六合村組合

貳等賞

長野縣上水内郡芹田村組合
栃木縣那須郡東那須野村組合
同縣同郡那須組合
同縣同郡東那須野村組合
同縣同郡金田村組合
同縣同郡同組合
同縣同郡東那須野村組合
同縣同郡金田村組合
同縣同郡東那須野村組合
同縣同郡那須組合
同縣同郡東那須野村組合
同縣同郡同組合

人見金助氏
鶴澤市五郎氏

小野塚美喜太郎氏
市村兼吉氏
大武六三郎氏
渡邊仁三郎氏
矢吹寅吉氏
矢板米吉氏
磯金吾氏
人見由吉氏
本澤茂三郎氏
後藤均平氏
花塚留三郎氏
室井留吉氏

長野縣上水内郡古牧村組合
栃木縣那須郡東那須野村組合
同縣同郡同組合
同縣同郡同組合
神奈川縣都筑郡都岡村組合
栃木縣那須郡金田村組合
同縣同郡同組合
同縣芳賀郡中村組合
神奈川縣鎌倉郡中和田村中田組合
長野縣上水内郡芹田村組合
同縣同郡同組合
栃木縣下都賀郡富山村組合
同縣同郡南犬飼村組合
同縣同郡明治村組合
茨城縣眞壁郡河間村組合

井原新之助氏
小貫通氏
持井幸三郎氏
本澤長吉氏
久保田與右衛門氏
吉成留吉氏
吉成兼作氏
稻見宗三郎氏
片岡庄藏氏
北村五百治氏
小池織之助氏
椎名廣之助氏
桑川政國氏
生出慶藏氏
田谷宗三郎氏

朽木縣那須郡	東那須野村組合	松本喜代治氏
同縣同郡	同組合	和室仙二郎氏
神奈川縣筑郡	新治村組合	佐藤佐十郎氏
長野縣上水内郡	芹田村組合	小林多助氏
朽木縣那須郡	東那須野村組合	小池寅雄氏
同縣同郡	同組合	渡邊正吉氏
長野縣上水内郡	芹田村組合	山池久作氏
朽木縣那須郡	東那須野村組合	小澤政留氏
同縣同郡	同組合	本川喜一氏
同縣同郡	同組合	室井源一氏
同縣同郡	同組合	人見三男氏
同縣同郡	同組合	加藤登一氏
同縣同郡	同組合	永藤米藏氏
同縣同郡	同組合	根岸萬太郎氏

長野縣上水内郡	古牧村組合	小林盛之助氏
同縣埴科郡	五加村組合	中村與安氏
神奈川縣高座郡	御所見村組合	和田松太郎氏
千葉縣長成郡	一ツ松村組合	木島金作氏
同縣同郡	同組合	河野與一郎氏
同縣印旛郡	六合村組合	鶴澤庄次郎氏
同縣東葛飾郡	千代田村組合	奧山定吉氏
長野縣上水内郡	芹田村組合	太田巳之助氏
同縣埴科郡	五加村組合	中村忠治氏
千葉縣印旛郡	六合村組合	戸村富松氏
同縣同郡	酒々井町組合	岡田富松氏
長野縣上水内郡	古牧村組合	伊藤源吉氏
千葉縣東葛飾郡	千代田村組合	張ヶ谷庄吉氏
同縣印旛郡	六合村組合	松戸新氏

開會の辭 目黒工場長 永井 照 八

唯今より第三回麥酒醸造用大麥品評會を開催いたします。開會に先ちまして本會を當地に開會いたします理由を一言申上ります。第一第二兩回の品評會は、目黒工場に開き、其の當時は、各縣郡農會の代表者諸君と并に各耕作組合の組合長諸君に、出品者たる農家諸君の代表者として、御出席を仰ぎ御立合を願ひました。是は元來會社の本旨ではなく、事情止むを得ない處より起りました結果で、本來なれば出品者たる農家諸君に直接御參會を願ひたいのであります。出品者は廣く數縣下に跨り、其全部を一ヶ所に會合することは非常な費用を懸けなければ、不可能のことでありませう。當春栃木縣那須郡に於て郡農會が主催となつて、昨年度品評會の分にて那須郡だけの受賞者の傳達式を挙げました處が、其の地方農家諸君數百名會合いたしました。地方の麥作者には少からざる好影響を與へた様思はれますので、本年は會社の本品評會も試に地方にて開催することにいたしました。地方で開きますと唯其の地方だけに限られまして、他縣の御方々には返て御不便の點も御座います。若又此の品評會を年々開催地を變へて行きましたら、三年四年には一度づゝ同じ縣下で催すことになりませうので、目黒工場で代表者だけの會合よりも、幾分目的に適つた仕方の様思

はれます。當千葉縣は會社と契約栽培をいたしました最初の地方である緣故もあり、殊に當郡は郡長閣下并に岡本技手は此の事に非常の御熱心にて御盡力の結果、近年生産額品質等に於ても著しき進歩を遂げ、殊に組合組織も稍完成して、今後怠らざれば、組合活動の機運に向ふことが出來様と思はれます處から、品評會を開くに適當と考へましたので、當地に開催することにいたしました。次年度は何地で開くこと云ふことは兼て豫定をいたして置きませんで、其の場合に當つて事情を斟酌して、最も適當と認めたる地を選び、開催地を決定する考であります。

審査報告 審査長 安藤 廣太郎

大日本麥酒株式會社第三回麥酒醸造用大麥品評會出品の審査終了を告げ本日をして褒賞授與の式を舉行せらるゝに當り茲に審査の梗概を述べ以て栽培家諸氏の參考に資せんと欲す。

抑も本會の出品は本年購入大麥三萬八百石中購入標準の壹等品に該當し參石以上の供給をなせる栽培家の生産品にして其總數百九十九點なり而して之れが審査は前回に於けるが如く各出品に就き子實の整否、容重及千粒の重量、水分及蛋白質の多少并に發芽歩合等を精査し其結果優品九十五點を撰抜して褒賞を擬せり。

今回の出品は概して漸次改良の跡少なからずと雖も往々供給せられたる大麥の品質當初の標本に比し著しく劣悪なるものあり此の如きは栽培家としての信用を失墜するの基たるべきを以て特に注意せられんことを望む又出品中には外観敢て不良ならざるも乾燥の半途に於て雨濕に逢遇せしめたるが爲め著しく品質を損し收穫期及乾燥其宜しきを得ざると認むべきもの少しとせず將來此點に就て一層の改善を希望す今各地方の出品に就き概評せんに神奈川縣は品質比較的不良ならず殊に和田新藏氏生産品は同地方從來に見ざるの優品なり。

朽木縣は供給石數多きと共に優品に富み其多數は那須地方の生産品なり由來那須地方は土性の關係好適なりと云ふを得ざるに拘らず比較的優品多きは主として栽培家諸氏の努力と注意によるものたらずんばあらず殊に白石金十郎、伊藤喜一郎、大橋留藏、磯清次、人見金助、五氏生産品の如きは子實良好にして栽培及調製上の注意至れるを見る其他の地方に至りては收穫期及乾燥法等に就き遺憾なる點多し將來一層の改善を望む。

千葉縣 品質概して中等優品に乏しく收穫の適期を失し或は乾燥に注意を缺けるものあり獨り鶴澤市五郎氏の生産品は其土性の敢て良好なりと云ふを得ざるに拘

らず其品質の良好なるは氏が栽培調製上の注意尠少なからざるを認むるに足る。
茨城縣 供給石數朽木縣に次げるに拘らず品質概して良好ならず本邦中主要麥作地たる本縣の生産品に此の如き成績を見るは甚だ遺憾とす將來充分の改善を希望す。

長野縣 本年氣候の不良なりし爲め出品の品質は前回に比し稍劣れるものあるを見る然れども土性の良好なるが爲め品質一般に良好なり殊に金子平作、塚田藤一郎、瀧澤龜太郎三氏生産品の如きは本會の出品中特に一頭地を拔けり。

要するに今回の出品は之を前回に比し改良進歩の跡顯著なるものあるは栽培家諸氏の注意周到なるに基づくものなるべしと信ず然れども尙麥酒の原料として之れを歐米の生産品に對照すれば尙一籌を輸するものあり今日に於ては麥酒は殆んど清酒と同じく國民の缺くべからざる飲料の一たるに至れるを以て之れが原料たる大麥の優品を生産し海外より輸入を防遏することは亦我國産業の獨立上必要なりとす回顧すれば二十餘年前に於ては本邦に於て醸造せらるゝ麥酒は其原料たる麥芽、ホップ共に外國よりの輸入に依頼し本邦の原料としては僅かに水を使用するに過ぎざりしなり然るに今日に於ては本會社と栽培家兩者の熱心と努力とにより漸

く大麥を輸入するの必要なきを確認するに至れるは邦家の爲め甚だ慶賀すべきのことなりとす希くは栽培家諸氏一層奮勵以て優良なる原料大麥を多額に産出するに努められんことを望む。

大正四年十一月廿三日

審査長 安藤 廣太郎

式 辭 工務部長 藥學博士 上野 金太郎

本日第三回麥酒醸造用大麥品評會褒賞授與式を舉ぐるに當りまして來賓閣下並に耕作者諸君の斯く多數御臨席を辱ふしたるは誠に當社の光榮と致す處であります謹んで茲に御禮を申し上げます、亦安藤農商務省技師殿には審査長として審査の事を御擔任被下まして唯今御聞取りになりました通り公平にして嚴密なる審査を遂げられました此席に於て御報告の勞を執られましたに就きましては會社の名を以て感謝の意を表する次第であります本來社長が罷出まして此式を舉行致すべき筈であります折柄旅行中でありまして差支へます爲め私が代理として式場に臨みましたことは悪からず御諒察の程を願ひます。

借本會の授與式を御當地に開くことになりました次第は先刻永井工場長より申述べました通りでありまして東京に於て開催致しますると可成多數の御出席を願ひ

たき耕作者の諸君に甚だ不便でありますから地方で催ふしますると其附近の耕作者諸君は充分御集を願ふ事が出来ようかと云ふ考へで此事に決定致しました處が斯の如く會場に溢るゝばかり御出席の御座いましたは誠に欣喜に堪えざる次第であります是は畢竟諸君が諸君の業務に御熱心なる事が實現致したること、考へます夫のみならず先刻安藤審査長殿の御報告に依りましても長野縣及栃木縣には歐米の産と比較して遜色なきものが二三點ありましたし一般に品質が向上の傾向を示して居りますが全く縣郡農會及町村農會等の御指導宜しきを得たると同時に耕作者諸君の御奮勵の結果に外ならざること、信じて居ります御當地に於て申上げるのは聊か憚かりますが不幸にして千葉縣の産は優等品が前二縣に較べますと遙に少く從て受賞者の數も亦甚だ僅少であります何卒將來益御精勵なされて右二縣に劣らざる様否寧ろ優る様に御盡力を煩はしたき次第でありますから特に一言申上げて置きます。

品質は前述の如き有様で未だ充分満足を表すと迄で参りませんが數量に於ては本年は格別豊作でありまして諸君より當社の買入れました總石數は三萬石以上に昇りました全く未曾有の盛況であります本年斯の如く多量の大麥が合格致しま

したのは獨り諸君と当社との間に於て悦ぶべき現象であるばかりでなく實に是を大にしては我が國家の爲めに慶賀すべきことであると考へます其理由は御承知の通り昨年以來歐洲に大戰亂があつて歐洲殊に獨逸、埃太利よりの輸入が杜絶致しましたから当社以外の他の麥酒會社は原料たる麥芽の供給を絶たれたことになりま
す尤も其後英米其他より輸入さるゝ様になりましたから困ることはありませんが原料の品質が異ると云ふ様な困難は免れませんが若し大麥の供給が不足致
しますれば其不足を補ふには外國品を仰ぐより外に途がないのであります幸に
して前に申した如く豊富なる供給がありましたから全力を擧げて麥芽の製造に従
事致しますれば一ヶ年の需用を充たして尙餘ある程であります此國家多事の際多
少たりとも輸入を減ずることが出來ますことは誠に喜ぶべきことであると考へま
す。

又一方に於きましては東洋方面に主として麥酒の輸出を營んで居りました獨、埃が
交通を遮斷されましたから東洋方面の麥酒の供給が止りました其結果我が國特に
當社の麥酒が取て是に代はるの機運に向ひまして支那は勿論印度、南洋、濠洲への輸
出が劇増致しまして以前の二倍に達し獨り數量に於て増加したるのみならず方面

に於きましては從來印度以西には行つて居りませんのが地中海に入りましてホー
トセイドに達し更に亞非利加の東海岸に於ける諸港迄で行く様になりました即ち
諸君の栽培された處の大麥が麥酒となつて遠く一萬哩の彼方まで輸出されて外國
人の賞玩に與る様になりましたことは獨り會社の幸福であるのみならず栽培なさ
れた處の諸君に於ても定めし愉快を感ぜらるゝことであらうと存じます諸君が御
勉強になつて麥酒用大麥を栽培された結果は驪て麥芽の輸入を防遏するのみなら
ず進んで國産の大麥で造つた處の麥酒を海外に輸出する事になつたのであります
から諸君は間接に國家の爲めに盡された次第であります此二點は諸君と共に大に
祝すべきことであると信じて疑はざる處であります。

斯の如く麥酒の輸出が益増加し又内地に於ける需用も益増進致しまするに従ひ諸
君の栽培さるゝ處の大麥が多量に消費さるゝ理でありますから諸君の利益の上よ
り見ましても大麥の品質を改良し其數量を豊富にすることは必要缺く可からざる
要件でありますから更に又一段と御奮勵を希望致します尙諸君に於て麥酒を御上
りになる機會がありましたならば諸君の自から作られたる大麥を以て出來た處の
當社の麥酒、即ちエビス、ザッポロ、アサヒを飲むことを御忘れなき様に願ひます、國産

奨励を急務とする今日ではあり且諸君の作られたる者即自家産の品であるのであり
りますから必ず他會社の麥酒と間違ひませぬ様御注意を願ひます一言希望を述べ
て今日の式辭と致します。

講演

目黒工場長 永井 熙 八

最近農商務省で麥及雜穀の取調と云ふ書物を出版いたされまして私も一部御送與
に預りました之を通覽いたしますに内地は勿論朝鮮臺灣に於ける麥及雜穀に關す
る精細な統計表が載せてありまして猶其の上下に關する世界の統計表が添てあり
ますので麥及雜穀に關する世界并に日本に於ける状況を明瞭にする事が出来まし
た、今其中で大麥に關する重要な點を二三御話申上ます、先づ世界の産額の
は何程位あるものであるかと申しますと最近即ち千九百十四年には凡そ二億六千
五百萬石である、又此の産額を産地の國別にした表を見ますると千九百十一年より
同十三年に於ける三年間の平均數は左の通りであります。

露西亞	九四、四五四、一六八
米國	三七、四五八、八一五
獨逸	三一、五六四、三三八

奧太利 匈牙利

日本

三〇、七七一、二五八
一九、六八九、九四八

此處には重要な産地のみを挙げたので之に次いで千萬石以上の産地は西班牙、英國、
佛國の三國である露西亞は流石に大國で世界一流の農産國であるので其の大麥産
額は實に全世界の産額の三分一以上を占めて居る、次に米、獨逸、三國の産額を合す
ると之又世界産額の三分一を占て居る、此の四國に次では我が日本國が位するので小
國の割合には多量の産額を有するのであるから

日本は立派な世界の麥作地と稱することが出来る

又日本内地の大麥作の状況を調べて見ると大正元年より同三年の三ヶ年間平均の産
額を見るに

大麥	九、九九四、〇四〇
稗麥	八、〇九六、〇七〇

で大麥と稗麥とが先づ半々位に作られて居る、今稗麥を除て大麥だけの産額を縣別
にした表を見ると大正三年度は次の通である

縣名

反當

茨城	一、〇二七、五六五	二、二一二
埼玉	一、〇二一、七三九	二、二二九
千葉	七一四、二二二	一、九五七
栃木	六九二、〇六八	二、〇五九
群馬	六三一、五一四	二、〇二五
宮城	四八九、五〇六	二、三五五
長野	三八四、〇八四	二、〇三七
東京	三五八、六八三	一、九六七
神奈川	三五六、二九六	一、一九六
福島	三五四、四〇八	一、七四八

以上は重なる産地であるが今茨城埼玉千葉栃木群馬東京神奈川の一府六縣即ち此の關東平原の大麥産額を合計して見ると四、八〇二、〇八七石で日本全産額の半ば以上を占めて居る、古來關八州は天下に當ると言ふたが其は兵事に關することであつたが麥作に於ても亦

關八州は天下に當ると云ふことが出来る

之に依て見ると我が社の契約栽培をなして居る地方は日本の最も重要なる大麥産地であつて又同時に世界の麥作地と稱することが出来るのである又日本の他の諸縣では其の縣で産出する麥を大部分其縣下で消費する處が多いのであるが此の近縣は何れも生産過剰で他縣へ輸出して居るのであるから

此の近縣は日本の重要なる大麥の輸出地と稱する事が出来る

次に此の調書の中で自分の注意を引たのは反當の收穫高の表である今明治廿一年以後五年間づつの平均數を擧ぐれば

自廿一年平均	自廿六年平均	自卅一年平均	自卅六年平均	自四十一年平均	自四十五年平均	自大正元年平均
至廿五年	至卅五年	至卅五年	至四十年	至四十五年	至四十五年	至同三年
一、〇七七	一、二二三	一、三二七	一、三四六	一、五二八	一、六三〇	

にて廿一年以後廿五年間に一倍半の増收となる又明治廿一年より廿五年の五ヶ年間平均の全國大麥産額は六、九三二、八四八石にて大正元年より同三年に至る三ヶ年間の産額は九、九九四、〇四〇石にて之を比較すると之も亦約一倍半の増加をして居る、即ち此の増收は作付反別の増加の結果ではなく反當り收穫高の増加が其の直接原因である事が明瞭である、之の事實は日本の農業に取りて實に可驚進歩を意味してをる、此の一大進歩を遂げたのは主として縣郡農會の人々と農家諸君との努力の

結果であつて其の功は則ち諸君の負ふ誇とするに足るべきものである。然しながら山高きが故に貴とからず木あるを以て貴とすと昔から申ますが物は唯多いと云ふのみを以ては満足が出来ない、即ち品質の好いものを多量に産して初めて眞の誇とする事が出来るのである、産額に於ては日本の麥作は近來非常の進歩を遂て居る事は只今述べた通であるが品質の點に就ては決して之に伴ふ程の進歩をして居らないと私は考へるのである、先程舉げた世界の麥の産地では露國を除いては他國では大麥を作ると云ふことは麥酒の原料となる大麥を作るのが目的である、然るに我國では大麥の用途は農家の食料と馬糧とである日本の大麥の品質の改良進歩しない一大原因は此處に存して居ると私は信するのである、農家は各自其の收納せる大麥を自家の食料に供して居るのであるが故に大麥の品質の粗悪なる事を非難する時は直ちに自己を非難する事になるので品質に就て多く彼是言はないのは自然の人情である、又農家自己以外には誰に大麥を供給するかと云ふと對手は生憎馬である、馬は品質の良し悪しを苦情は云はない腹さへ満つれば先づ黙して居るつまり大麥の品質に就ては殆ど誰も小言の言ひ手がないので品質改良が等閑に付せられて居る、即ち品質に對する要求がないので従て農家が此點に向つて努力しな

いので其の結果更に進歩しないのであると思はれます。

農産物も農家が自身で消費する以外に或は市場の商品となり或は工業の原料となる、其の品質に種々の要求が生じて来る又品質の良否によりて自然其の價格に差等が付せらるゝので農家は之に刺撃されて品質の改良を計る様になるのである、故に大麥も農家自身と馬糧以外に使用さるゝことになりて其の品質改良の必要が起てくる、大麥の食料馬糧以外の用途は主として麥酒工業で麥酒工業の原料大麥の品質に對する要求は他の工業の其の原料の品質に對する要求よりも八釜しいのである、他の工業の原料では其の品質に良否のある場合其の價格が引合へば使用するこゝが出来る場合が多いのであるが麥酒の原料は其の餘地が甚だ少いので其の品質が或る程度以下なる時は全く使用する事が出来ない、日本の麥酒用大麥も初の内は品質がいかに劣等であつたが年々改良されて今日では先相應な品が供給さるゝ様になつて來た、之は縣郡農會の諸君の盡力と農家の努力の賜であるには相違ないが又一方から見ると其の基となる原因は需要者たる會社の大麥品質に對する要求其のものであると云ふことが出来ようと思ふ。

私は先年歐洲へ参りました節に至る所で麥酒原料大麥の品質に注意をした、外國で

實際使用して居る大麥の品質を日本大麥と比較して見ると西比利亞又露本國などで使用して居る大麥は日本産に比して數等劣て居る。又麥酒製造の本場である獨逸でも必ずしも上等品のみ使用して居るのではない又今回歐洲大戰で日本の麥酒會社は奥、獨産の麥芽を購入することが出来ないで米國品を使用して居る、此米國麥芽の原料大麥は主に所謂四條麥で決して上等のもの云ふことが出来ない、これらの事實から私は兩三年前より一の希望を起して居る、今日では日本の麥酒が東洋各地に餘程輸出さるゝ様になつたが麥酒の輸出されない處には原料麥芽を輸出することは出来ないかと云ふことである、即ち日本製の麥芽を外國の市場に商品として輸出したいと思ふのです、麥芽の輸出も私の考では最早決して空想ではないと思ひますが今日の處では未だ直ちに實行することが出来ない、其には之に對する準備が必要である、準備とは一は大麥の改良と一は製麥作業の進歩である、後者は我々の會社のみに關する仕事であるが大麥の改良即ち第一廉價に品質上等の原料大麥を得ることは即ち諸君の力に待たねばならない、麥芽の輸出は麥酒の輸出から見ると一層困難な事業である、麥酒は一般の人を相手とするのであるが麥芽は其の需要者が麥酒製造所であるので即ち本職を相手にするのであるからである、我が製麥事業

も十數年の間に非常の進歩をして居るのであるから私は日本の製麥の已往を追想して見ると我々と諸君と努力の結果何年かの後には今より一段の進歩を遂げ得るゝならば麥芽輸出も此を實現せしめ得ると云ふ自信を有して居るのである、少くも私は諸君と共に此の希望を以て此の事業に従事し様と思ふのである、而して此の域に進まんとするには其の基礎となるべき原料大麥の改良すべき點は今日の處では中々多數ありますが其の多數の點を今日諸君の前に一々列擧して一時に之が改良を迫ても之は云ふのみで實際には行はれ難いのであるから私は其の内一の容易に行はれ得ることを擧げて諸君に來年より直ちに之を實行して戴きたいのである、其は何であるかと云ふに大麥の乾燥である、大麥の乾燥に就ては今日初めて申上げることではなく既に契約栽培の當初より申上げて居ることでありますが其後何年経ても未だ實際に實行されて居らない、此の點に就ては關東の大麥は關西北海道産の大麥に比して劣て居る一大缺點である、乾燥不充分の結果は大麥貯藏中に夥しく虫害を受け又發芽の力を弱くするので我が會社は之が爲め年々少からざる損害を受けて居る、唯に損害のみならず製出麥芽の品質に悪影響を蒙りて居るのである、私は本年度取引した大麥に就て實驗上事實の上から此改良が他の事に先つて必要で

あると云ふ事を又新に適切に感じたのである、此の改良を實行するには新なる設備も何も要しない唯農家各自の注意に依つて得らるゝことである、即ち受渡前に天氣よき日を選びて充分に乾燥し又よく冷却して後ち荷造をするのである、本年の見本と實際受渡の大麥は乾燥に就ても亦非常に區々町々であつた、乾燥の悪しき大麥は見本査定と大麥受取の際には其の品質がいかにより好であつても貯藏中に損害を受けて惡變するのであるから査定や受渡の際既に之を計算に入れて他の乾燥よき品と比較するのは之の點に注意を拂つた農家と不注意の農家との公平を保つ上にも亦必要である、そこで既に本年見本査定の際にも他の點には差支無いが乾燥悪しきものを提出した農家には一々端書を以て注意を與へたのである、私は此の乾燥不充分と云ふ缺點を矯正するには見本査定受渡の際に會社にて以前より一層嚴格の態度を以て之に對するより外に方法なく又此の方法は必要で止むを得ざる處置である、と信するのである。

以上述べた主意に基きまして來年度よりは水分に就ては今年までよりも一層重きを置いて査定も受渡も行ふ積でありますから農家諸君も此の點に充分の注意を拂ふて戴きたい、猶本日地方の代表者として御來會被下しました縣郡農會の御方々及組合

長の諸君には私の申述べた希望を一般に御通知被下しまして會社の意のある處が廣く行渡る様御取計被下れんことを切に御願申上ます。

如此怠らず一事づゝ改良して行きましたら年を重ねるに従て麥酒用大麥も其の品質を漸々向進せしむることが出來様と思はれます、斯くて數年の後には關東地方は只其の數量に於て麥作地であるのみならず品質の上にも立派な大麥産地となることが出來やうと思ひます、之れは唯一ヶの空想でなく諸君と相共に努力して他日必ず此の域に達せんことを期したのであります。

品評會開會に當り多年麥酒釀造用大麥契約栽培に盡力し其の成績優良なりし組合に對し聊か感謝の意を表する爲め左記各組合に對し之を表獎せり

千葉縣印旛郡八街村組合

千葉縣印旛郡公津村組合

千葉縣印旛郡志津村組合

千葉縣東葛飾郡千代田豊四季村組合

千葉縣 東葛飾郡 田中村 組合
 千葉縣 東葛飾郡 八柱村 組合
 神奈川縣 高座郡 綾瀬村 組合
 神奈川縣 高座郡 御所見村 組合
 神奈川縣 都筑郡 新治村 組合

貴組合と麥酒醸造用大麥の栽培契約を締結せし以來毎年誠實に契約を履行し其の成績逐年良好に進み其の數量も亦増加するに至りしは全く各位共同御熱心の結果と深く感謝の至りに不堪茲に乍些少別封金圓を貴組合共同基金中に贈呈して聊か謝意を表し併て貴組合の健全なる發達を希望す

大正四年十一月廿三日

大日本麥酒株式會社長

馬 越 恭 平

(附記)

第三回麥酒醸造用大麥品評會栃木縣褒賞授與式

大正四年十二月五日栃木縣栃木町下都賀郡農會に於て褒賞授與式を舉行す會場は同町所在下都賀郡立農學校を以て之に充つ當日來會せる耕作者約七百餘名來賓には田村栃木縣農會副會長同下山技師、卷島農事試驗場長、富田那須郡農會長、峰村上都賀郡農會長、長井下都賀郡農會長、河原農學校長、榊原栃木町長を始め關係各郡町村長耕作組合長及び技術員、新聞記者其他有志者を併せて數十名あり舉式は午前十一時を以て始まり褒賞を贈呈し午後一時終了小憩の後當日特に派遣を乞ひたる惠農商務屬より組合に關する有益なる講話ありたり。終り

大正五年三月十二日印刷

大正五年三月十五日發行

發行所

東京府荏原郡目黒村三田二百四十七番地

大日本麥酒株式會社目黒工場

代表者 永井 淵 八

東京市京橋區南水谷町七番地

印刷者 山村 郁 策

東京市京橋區南水谷町七番地

印刷所 日進 舍

電話京橋五百九十番

326
140

終

